

【議事】定29

(2) 大型展開アンテナ小型・部分モデル2 (LDREX-2) の打上げについて

資料 29-2 (LDREX-2) を JAXA の堀川理事が説明し、青江委員が盛んに批判していた。欧米では余り積極的でない大型アンテナの開発に取り組むことに不満を表明していた。回答者がもう一人同席していたがお名前がわからない。

青江：大型アンテナ開発の米欧の状況<sup>1</sup>を教えてください。

JAXA 堀川：米国では移動体通信用に大型アンテナが開発されているが、わが国とは方式が違う。わが国の方式は優れたものと自負している。

青江：欧州はどうしているのか。

JAXA：ロシアのロケットを使った実験を行ったことが有る。現在は開発を断念しているが、大型アンテナを手に入れ

---

<sup>1</sup> 欧米の動向を参考にするのは一つ的手段では有るが、それだけが唯一ではない。科学ミッションの取り組みは世界と協調しながら、それぞれの国が特徴を持ちながら進めている。

米国の動向を参考に考えるとき、最も大切なことの 하나가軍事利用である。米国は世界展開をする軍隊を保有し、宇宙をそのために実利用することが大きな関心事である。わが国は軍事利用価値の高い技術であるのにも拘らず、軍事利用はしないと考えており、世界展開をする必要性を感じていない。そのため、資源の集中に関する戦略に大きな相違が発生して当然である。

それではどんな戦略かと聞かれると、具体性の有る返答はまだ出来ない。

たいとは思っている。

青江：世界は(大型アンテナを)必要としていないように感じる<sup>2</sup>。

JAXA 堀川：40 m 級の大型アンテナができると、携帯端末で受信ができる<sup>3</sup>ようになる。災害時用の特別な端末を使わなくても、災害時の通信が確保できる。

青江：国のお金を使ってやるミッションとして適当なものなのか、疑問を感じる。

---

<sup>2</sup> これは大きな誤解である。「必要性」は感じているが、「技術習得を急がない」と思っているのであろう。じっくり気長に取り組むのか、必要な時期に資金を集中させて一気に獲得するのか、各国の事情によるのではないか。また、米国には「シャトル後継」と云う金食い虫が居る。「大型宇宙構造物」の優先順位は下がって当然であろう。

<sup>3</sup> これはあくまで一歩先の利用方法である。ずっと先には「宇宙太陽発電所」がある。石油と原子力エネルギーの枯渇は必ずやって来ることで、その前に実現させなければならない。「宇宙太陽発電所」の開発課題は、技術的にフィージブルであるが、政治的、経済的にフィージブルでないので、それを解決する技術を習得することが必要である。対象となる技術は、「マイクロ波エネルギー伝送」「宇宙大型構造物」「宇宙輸送機」などが挙げられている。「災害時通信のための大型アンテナ」ばかりでなく、国民が背中を押してくれそうな「宇宙大型構造物のアイデア」が見つければ、それを国が推し進めることで「宇宙太陽発電所」が近づいてくる。道程は遠すぎて「技術開発を専らとする」国の機関が取り組む以外に資金調達の見込みが立たない。